

# こうち+クロス

高知赤十字病院  
広報誌

ご自由に  
お持ち帰りください



## 特集:脳血管内治療のご案内



### 高知赤十字病院の理念

愛され、親しまれ、信頼される病院づくりを目指します。

### 高知赤十字病院基本方針

- 人道・公平・中立・奉仕の赤十字基本原則を遵守します。
- チーム医療を推進し、患者様中心の安全で良質な医療を提供します。
- 高度医療の推進と救急医療の充実を図ります。
- 地域医療機関との連携を推進し、地域医療レベルの向上に努めます。
- 教育・研修の推進と次代を担う医療従事者を育成します。
- 災害時における医療救護活動への積極的な参加と支援を行います。

### 受診される皆様へ

私たちは、受診される皆様の権利を尊重します

- 平等かつ適切な医療を受ける権利
- 個人の権利が尊重される権利
- プライバシーが保障される権利
- セカンドオピニオンを受ける権利
- 医療上の情報及び説明を受ける権利
- 医療行為を選択する権利

### 私たちからのお願い

- ご自身の健康に関する詳細な情報を医師をはじめとする医療提供者にお知らせください。
- 治療や検査等は、理解し、納得したうえでお受けください。分からないこと等は、ご遠慮なく医師をはじめとする医療提供者にお問い合わせください。
- 病院内では他人の迷惑にならないようお願いいたします。
- 暴言・暴力行為があった場合、診療をお断りすることがあります。
- 医療費の支払い請求には、速やかな対応をお願いいたします。
- その他、より快適な入院生活をお過ごしいただくために、病院内の約束事についてはご協力をお願いいたします。

# 脳血管内治療のご案内

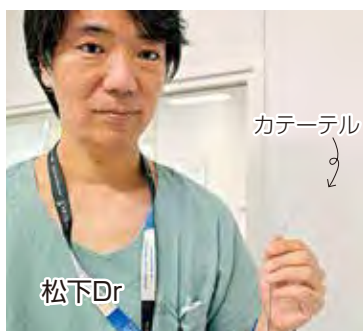


## 脳血管内治療とは

脳血管内治療とは、主に脳や頸部の血管に問題がある患者さんに対して行われる、カテーテルを使った低侵襲の治療法です。従来の直達手術と異なり頭や首を切開することがないため、体への負担が少なく、短い入院期間での治療が可能となります。この治療法は、脳動脈瘤や動静脈奇形、脳梗塞を引き起こす脳や頸部の血管狭窄や急性閉塞など血管に関連する疾患に対して特に効果的です。

## 治療の流れ

治療は、足の付け根や肘や手首の動脈からカテーテルを挿入することから始まります。カテーテルとは医療用の細い管のことで、それを病変部位まで進めて治療を行います。X線透視装置を用いてリアルタイムで血管の中を確認しながら操作、進行していきます。直達手術では到達困難な脳の深部にある血管にもアプローチが可能です。例えば脳動脈瘤の場合、瘤の中に挿入したカテーテルを通じてコイルを送り込み動脈瘤を内側から詰めてしまうことで血流を遮断します。脳梗塞の場合は血管を広げる器具や血栓を取り除く器具をもちいて血液を再び流れる状態にします。これらの治療器具は日々新しいものが開発されており、治療しうる対象病変は年々増加しています。



カテーテル

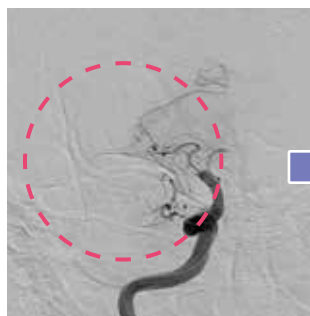
松下Dr

## 主な治療対象

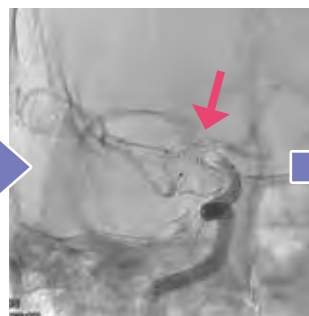
### 脳梗塞

血栓回収術を用いて、詰まった血管を再開通させます。すでに脳梗塞が完成している部分は血流を再開させても救えないため、とにかく早期に診断し治療を開始する必要があります。当院では脳梗塞を疑う患者さんに対しては救急外来から専用の対応(ストロークモード)をとることで早期対応する体制を整えています。

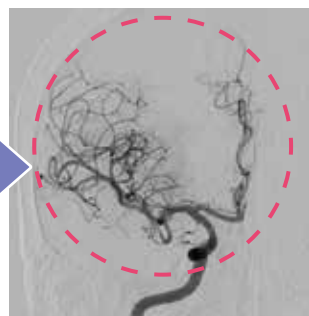
右内頸動脈の閉塞あり、閉塞部を通過したカテーテルからステントリトリバー(血栓を捕捉する器具)を展開、血栓を回収することで再開通が得られた。



内頸動脈の血栓閉塞のため脳血管(前大脳動脈、中大脳動脈)が写し出されない



ステントリトリバーを展開し血栓を捕捉

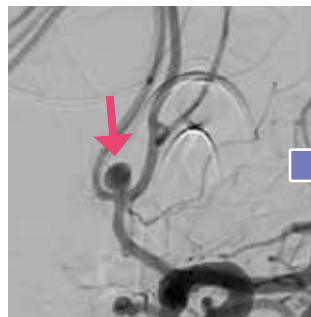


血栓を回収することで、それまで、写し出されなかった脳血管が写し出されるようになった

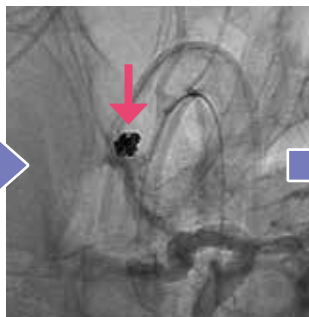
### 脳動脈瘤

瘤の中にコイルを詰める(塞栓する)ことで、動脈瘤の破裂を防ぎます。破裂してくも膜下出血を起こした方に再破裂予防として行うのみでなく、脳ドックなどでたまたま見つかった破裂前の動脈瘤を予防的に治療することもあります。予防的に治療行う際は抗血小板薬という薬をのむことでフローダイバーター(血流を整える器具)などの様々な器具を使うことができるようになり、従来治療困難であった病変に対しても治療を行うことができるようになってきました。

#### コイル塞栓術



前交通動脈部に動脈瘤を認めた



瘤内にコイルを充填



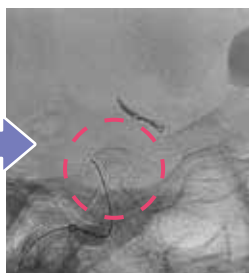
瘤内への血流消失を確認

再破裂防止のため、動脈瘤の中にコイルを充填し、動脈瘤の中への血液流入は消失した。

#### フローダイバーター留置術



内頸動脈に大型動脈瘤



動脈瘤入口を塞ぐようにフローダイバーターを留置



直後から瘤内血流停滞を確認



半年後には動脈瘤の消失が確認された

動脈瘤の入口を塞ぐようにフローダイバーターを留置、直後から動脈瘤内への血流停滞を確認でき、半年後の再検査では動脈瘤が完全の消失していることを確認できた。

脳血管内治療は、患者さんの体への負担を最小限に抑えつつ、効果的な治療を提供する新しい手術法です。当院には2名の専門医が在籍しており、最新の技術と設備を用いることで安全な治療を提供しています。救急病院である当院では、救急外来や手術室の看護師、診療放射線技師が常時診療支援可能な状態にあり機動性を活かした迅速な対応ができることも特徴です。脳血管内治療に関してご不明な点やご質問があれば、どうぞお気軽にご相談ください。

ホームページはこちら



高校生を対象  
とした体験会

# 「医療体験ラボ2」を開催しました。



7月15日(月)医療の道に進学を希望する高校生を対象に、病院の仕事を体験していただく医療体験ラボ2を開催しました。

2回目の開催となる今回は高校生12名が参加。白衣と聴診器を身に着け、内視鏡検査、薬剤業務、一般検査、手術室と4つのテーマを体験していただきました。

体験中は、スタッフからの説明を熱心に聞き入り、調剤業務や医療機器の操作など一生懸命に取り組んだり、真剣に学ばれていました。

医学部、薬学部への進学を希望している高校生からは、「より医師になりたい思いが強くなった」、「受験勉強を頑張る力になった」、「これほど楽しく勉強できると思ってなかった」など、嬉しいコメントをたくさんいただきました。

医療体験ラボは、テレビ高知とのコラボ開催となり、体験会の様子はテレビ高知の番組やホームページでも紹介されています。



## 人間ドックの後、カフェ利用ができるようになりました



当健康管理センターでは、これまで人間ドックを受診していただいた方へ当院2階のレストランでご利用いただけるお食事券をお渡しておりましたが、この度、受診者サービス向上の一環として、1階のカフェでもご利用いただけるようお食事券のご利用範囲を拡大しました。カフェではお好きなパン、スープ、ドリンクを選んでいただき、カフェ内での食事、もしくはお持ち帰りもできますので、健診の後はゆっくりとお食事のお時間をお楽しみください。



# ふれあい看護体験



2024年8月9日(金)、ふれあい看護体験を開催しました。

これからの社会を担っていく高校生に、看護職との交流や患者さんとのふれあい体験を通して看護についての理解と関心を深め、看護師の仕事に興味を持っていただくためのイベントです。

今年度は、高校1年生から3年生までの16名に参加してもらい、実際に病棟でのふれあい看護体験を行うことができました。患者さんとの直接のふれあいや、看護師の現場の様子を見学することで「看護師になりたい気持ちが強くなりました」「手浴をして気持ちよかった」といってもらえて嬉しかった」という感想が聞かれました。私たち、看護師も高校生のきらきとした様子に元気をもらいました。ふれあい看護体験がみなさんの将来を考えるきっかけになれば、幸いです。

## スペシャルオープンキャンパス in 高知赤十字病院

四国医療工学専門学校のスペシャルオープンキャンパスとして、病院見学を実施しました。

臨床工学技術学科(ME)コース、医療情報学科(医事)コースに多くの高校生(保護者を含む)と現役生が来院。高校生は市内をはじめ、県東部、西部の高校、また愛媛県の高校からも参加してくれました。

MEコースは、血管撮影室、OP室へ。人工呼吸器、モニター類、ダヴィンチを体験見学。医事コースでは、事務所や医事課、救急外来へ。実際に受付に座ったり、外来診察室の裏側を見学。途中ドクターヘリが飛び立つところも見えました。

楽しく学べた時間になっていたら嬉しいです。



ヘリポートで集合写真



手術室にてダヴィンチを操作してみる



受付業務を体験

MEセンターで人工呼吸器をつけて実際に呼吸を試みる



手術室にてダヴィンチについて説明



医事課長より医事の仕事について講習

# 第20回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会開催

令和6年8月25日(日)、高知市文化プラザかるぽーとにて「第20回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会」(会長：高知赤十字病院院長 谷田信行)が開催されました。県内15の医療機関の持ち回りで、第20回の節目に当院が担当となりましたが、新型コロナウイルス感染症が5類に移行してから1年が経過し、医療体制は有事から平時に移行しつつも、感染対策を徹底しながらの開催となりました。

今回の学術集会のテーマは「地域で考える安全な医療継続 ～来る災害に備えて～」です。特別講演では、今年1月に発生した能登半島地震で石川県災害医療コーディネーターを務めた公立能登総合病院脳神経外科部長の圓角文英先生が、「令和6年能登半島地震対応報告」と題して講演を行いました。圓角先生は、自院が被災した際の初動対応やBCP(事業継続計画)の検証結果について、反省点や課題を交えながらお話しされました。特に、災害対応マニュアルに従って迅速に病院災害対策本部を立ち上げた経験や、想定外の出来事に

対する対応について具体的な事例を交えて説明されました。

また、ランチョンセミナーでは、日本電気株式会社(NEC)サイバーセキュリティ戦略統括部の小林昌史先生が「医療機関における個人情報保護の基本と実施すべきセキュリティ対策」について講演しました。小林先生は、医療機関が直面するサイバーセキュリティの脅威とその対策について、具体的な事例を交えながら解説しました。

一般演題では、災害医療、医療安全、感染対策、組織運営、看護管理、地域連携、情報管理、診療報酬、教育研修など、多岐にわたるテーマについて県内各地18施設から78演題が発表され、活発な討論が行われました。特に、災害医療に関する発表では、南海トラフ地震に備えた具体的な対策や訓練の重要性が強調されました。具体的には、地震発生時の初動対応、避難計画の策定、医療物資の確保と配分、患者のトリアージ方法などが議論されました。また、訓練の重要性についても触れられ、定期的なシミュレーション訓練や実地訓練の実施が推奨されました。

今回の学術集会には、参加者とスタッフ合わせて約360人が参加し、高知県の医療の質の向上に大きく貢献できたと考えています。

最後に、学術集会の開催にご協力いただいたスタッフの皆様へ心より感謝申し上げます。

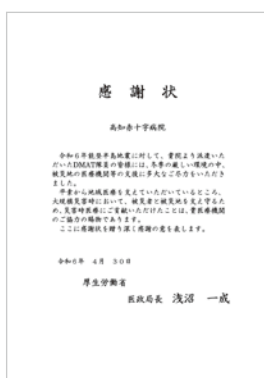


## 感謝状をいただきました

厚生労働省より、令和6年能登半島地震へのDMAT隊員派遣に対し、感謝状をいただきました。

能登半島では9月にも豪雨災害が発生し、大きな被害がありました。心よりお見舞い申し上げます。

当院はこれからも地域医療への貢献と共に、日本赤十字社の一員として、被災者と被災地域への支援を行って参ります。



# 新しい無呼吸検査はじめました

## 睡眠時無呼吸症候群はこのような症状です

- 眠気、不眠
- 寝ても疲れが取れない
- 倦怠感
- 窒息感を伴って目が覚める



## ほおっておくと…

- 仕事の効率が下がる
- 交通事故のリスクが高くなる
- 心血管障害、脳卒中、糖尿病、うつ病などの合併

睡眠時無呼吸症候群に対する、新しい検査を導入しました。

指先と胸部のセンサ、腕時計様の器械を装着するだけ、鼻カニューレを使用せずに末梢の血流量を連続的に測定して、無呼吸低呼吸指数を算出できます。以前の器械より検査が簡便に行えます。



宮崎Dr

耳鼻咽喉科外来へ、  
お気軽にご相談ください

指先で血流量を測定して  
無呼吸低呼吸指数を算出



## 医療公開講座報告 in 佐川

高知赤十字病院は高知新聞企業と共催で9月14日(土)、佐川町総合文化センターにて今年度2回目の医療公開講座を開催しました。

外科上村医師から「よくわかる膵がんの手術」、脳神経外科溝渕医師から「脳ドックのススメ」と、病気や治療、検査の方法などについてお話をさせていただきました。

アンケートでは、鮮明な画像で詳しく話が聞けて良かった、質問にも丁寧に答えられていたので十分理解できた、自分や家族の健康に留意したいという気持ちが強くなった、医学の進歩の素晴らしさを感じた、など好評をいただいています。多くの方のご参加ありがとうございました。佐川町での開催は久しぶりとなりましたが、今後も開催させていただきたいと思っています。



外科 上村医師



脳神経外科 溝渕医師





手話言語条例の制定や、電話リレーサービスといった様々な法律・条例・公的サービスが施行・実施されるようになり、聴覚障がい者の方々も少しずつ暮らしやすい社会に変化してきています。

また、最近では聴覚障がい者・手話を取り入れたテレビドラマ等も放送されており、より「手話」という言語を身近に感じている方も多くなっ

てきているのではないのでしょうか。

一方で、様々な公的な施設では依然として聴覚障がい者が安心して利用できる環境が整っていないと言いき難い現状もあります。これは、聴覚障がい者に対しての配慮を行っていないということではなく、対応が筆談といった限定的な方法になってしまっているということです。

国の教育方針といった時代背景によって、読み書きが苦手な聴覚障がい者は多

く居ます。そのため、筆談でのやりとりでは十分に情報を理解できず、質問したいことも聞けずに診察を終えて自分の状態もわからないまま帰るという経験をされた方もいらっしゃると思います。

私はこのような経験をする方を少しでも減らし、誰もがいつでも安心して病院を利用できるようにという思いから『手話通訳者』の資格を取得しました。当院で聴覚障がい者の方への対応をした実績はまだありませんが、今後、聴覚障がい者の方が入院等された際には情報を十分に正しく伝えられるように活動をしていきたいと考えております。また、スタッフに対しても「手話」の普及も行っていきたいと考えておりますので、興味のある方は是非お声がけください。



## 摂食嚥下チームの活動報告

摂食嚥下障害看護認定看護師 濱田 理美

「口から食べる」ことは、生きていくための栄養補給だけではなく、食べることの喜びや生きることの喜びを味わうものであると考えます。

「口から安全に食べ続ける」ためには、患者さん個々の嚥下の状態を正しく把握し、生活環境に合わせた訓練やケア、食事形態・摂取方法などの工夫や対策が必要になってきます。

多職種(耳鼻科医師・摂食嚥下障害看護認定看護師・耳鼻科外来看護師・言語聴覚療法士・管理栄養士・薬剤師)で患者さんに安全に口から食べれるように関わっています。



嚥下内視鏡検査をしています

### 活動内容

- 週2回(月・火)の嚥下内視鏡検査施行
- NST加算にむけてのカンファレンス
- 嚥下回復加算2の算定に向けてのカンファレンス
- 看護師への指導・相談
- 患者・家族への指導・相談



濱田Ns

# CAFE CROSS

## ★ 研修医一年目のご紹介★

## RESIDENT INFORMATION



はたけやま ゆうき  
畠山 優樹 (高知大学卒)

### 医師を志したきっかけは？

小さい頃から病院にかかることが多くて、その時にお世話になった先生に憧れたのが最初のきっかけです。



### これが好き♡

国内旅行とカフェ巡りが好きです。観光名所に行くのも良いんですが、地元のスーパーやカフェに行くのが、その地域感を感じられて好きです。



### 私、スゴイんです♪

最近、マラソンにはまって今年、龍馬マラソンに参加します。時間があれば、応援に来てください。

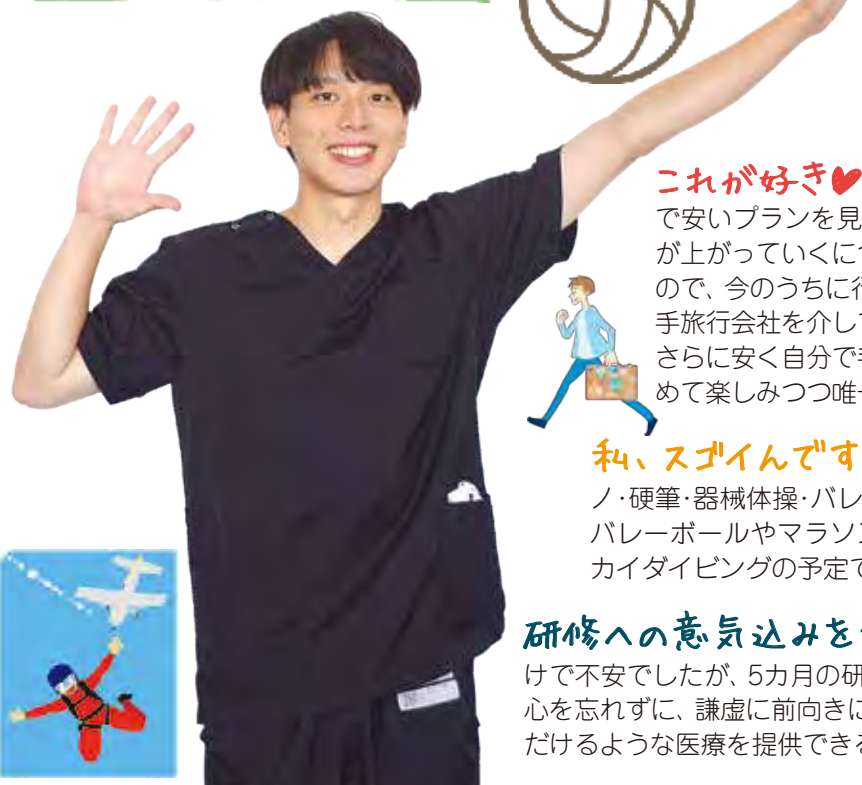


### 研修への意気込みをひとこと★

自分が生まれた病院に採用していただいて、採用いただいたときは非常にうれしい気持ちでした。まだまだ未熟者ですが、皆様の力になれるように頑張りますので何卒よろしくお願いいたします。



はやし のあ  
林 能亜 (高知大学卒)



### 医師を志したきっかけは？

三人兄弟一番下の弟が、心疾患で手術により救っていただいたことで、医師を目指すようになりました。その後もバレーボール選手、NGO職員など様々な夢を経て結局医師という夢に落ち着きました。

**これが好き♡** 海外旅行です。暇さえあれば、旅行サイトで安いプランを見つけては行くようにしています。医師の年数が上がっていくにつれ、海外に行くにも行きにくくなってしまうので、今のうちに行きたいと思っています。今まで学生時代は大手旅行会社を介してでしか行ったことがなかったのですが、最近はさらに安く自分で手配しています。失敗もつきもので、それも含めて楽しみつつ唯一の趣味としてリフレッシュしています。



**私、スゴイんです♪** 幼少期に、親から無理矢理、水泳・ピアノ・硬筆・器械体操・バレーボールをやられていたせいか、今もなおバレーボールやマラソンなど体を動かしています。次の挑戦は、スキダイビングの予定です。(高額なため貯金中です)



**研修への意気込みをひとこと★** はじめはわからないことだらけで不安でしたが、5カ月の研修を終え仕事にもやっと慣れてきました。初心を忘れずに、謙虚に前向きに研修していきます。患者さまに安心していただけるような医療を提供できるように努力していきます。

# 防災season

シーズン

～当院の防災の取り組みや考え方を紹介します～

No.10

栄養課 大倉 望

2024年8月8日夜、「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」が気象庁より発表され、今後30年以内に70～80%の確立で起こると言われていた南海トラフ地震がより一層現実味を帯びてきました。南海トラフ地震発生後、県外から支援物資が届くのは発災4日目以降と言われており、最低でも3日以上以上の備蓄が必要です。今回は「食料品における備蓄のポイント」についてご紹介します。

何を備蓄するかですが、まずなんといっても水は欠かせません。人間の体の60%は水でできており、水分不足になると脱水症や脳梗塞、心筋梗塞を起こすリスクが上がります。まずは、1人1日3Lを目安に水を準備しておきましょう。水が準備できたら次は食事です。常温保存ができて、そのまま食べられるパックご飯やレトルト食品、缶詰などがおすすめです。カップ麺も備蓄は可能ですが、災害時にお湯を準備できるかどうかという点には注意が必要です。災害時には食べるものが偏りやすく、栄養不足にもなりやすくなります。エネルギー、蛋白質、脂質、ビタミン、ミネラルなどが入っている栄養補助食品などをドラッグストアで購入しておくとう安心です。また災害時は環境の変化によるストレスなどで食欲も低下しがちなので、好きなもの

や食べ慣れた食品、甘い物も備蓄しておくとしラックス効果もあって良いと思います。

消費期限まで半年を切ったら使用して新しく買い足すなどして、その都度内容を見直しながら災害に備えましょう。



## 「がんサロン」がリニューアル!

がん患者さんやご家族同士で日頃の思い、悩みや不安、体験、生活上の工夫などを、安心して語り合える場をご用意しています。当院を受診されていない方でも参加していただけます。

サロン時間内に  
毎回院内職員からの  
ミニ勉強会も  
行っています。



**開催場所** 2階 レストラン内 (営業終了後)

**開催日** 毎月 第4月曜日 15時～16時  
※急遽、開催中止になる場合があります

**参加方法** 事前申し込み不要・参加無料 開催時間内  
にご自由にご参加ください。

**問い合わせ先** 088-822-1201 (病院代表)

今後の予定	ミニ勉強会担当
11月25日	リハビリ
12月16日	管理栄養士
1月27日	薬剤師
2月17日	認定看護師
3月24日	公認心理師
4月28日	医療ソーシャルワーカー



# 災害時の備えについて ～薬剤師の立場から～

2024年8月8日、宮崎県で震度6弱の揺れを観測したマグニチュード7.1の地震で、気象庁は「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」を発表し、国民に地震への備えを確認するよう呼びかけました。

その結果、高知県においても、スーパーやホームセンターにおいて、水やカセットコンロ用ガスボンベ、防災グッズなどが売り切れとなる状況が見られました。

南海トラフ地震に日頃から備えておく必要性を改めて感じた出来事でした。

## お薬に関する備えはどうでしょうか？

「お薬手帳」は処方されたお薬の名前や飲む量、飲むタイミングなどを記録するための手帳です。その記録から、現在どんな治療をしているか、過去にどのようなお薬を飲んだことがあるかなど、医療従事者にお薬の情報を適格に伝えることができます。また、アレルギー歴や副作用歴を記載しておくことで、あとで確認することができます。

災害時に災害救助法が適用された場合、お薬手帳があれば処方箋がなくてもお薬をもらえることがあります。また、津波や停電などで病院や薬局のカルテ・薬歴が見られない場合や、避難所での診察にも役立ちます。



## 万が一に備え、お薬手帳を健康保険証(マイナンバーカード)と一緒に持ち歩きましょう。

防災バッグと一緒に薬手帳や普段使っているお薬を持ち出しましょう。

防災バッグに数日分の常用薬を入れておくのも良いかもしれません。

# 一般社団法人日本臨床衛生検査技師会の 日臨技品質保証施設認証制度を受けて

第一検査部 技師長 弘内 岳

高知赤十字病院 第一検査部は2024年6月に一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会(以下日臨技)が認証する日臨技品質保証施設認証制度の認証を取得しました。

日臨技品質保証施設認証制度は、日臨技が2010(平成22)年より行っていた精度保証認証制度が、平成30年12月より施行された医療法等の一部を改正する法律(平成29年法律第57号)の趣意に沿う形で、公益財団法人 日本臨床検査協議会と共同して認証を行う新制度として制定されました。当検査部は2011年に開始された旧精度保証認証制度の認証を2023年まで継続して取得してきました。

日臨技品質保証施設認証制度は旧認証制度の外部精度管理の成績評価だけでなく、内部精度管理の実施、内部精度管理マニュアルの策定および記録の管理、精度管理を担う人材の育成が求められます。当院は臨床化学、免疫血清、微生物、血液、細胞、一般、生理、輸血、病理、遺伝子の10分野すべてで認証されました。2022年に高知県で最初に認証された高知大学医学部附属病院に続き、独立行政法人 国立病院機構 高知病院と共に高知県で2・3番目に認証された施設となりました。

今後も臨床検査のすべての工程を適切に管理し、臨床検査の精度の品質を高いレベルで維持し、高知赤十字病院の医療に貢献し、また微力ながら高知県の医療や健康の増進に役立ってまいりたいと思います。



# 高岡郡医師会生涯教育講演会を開催しました

がんをテーマに継続して開催している講演会です。今回は高岡郡医師会と共催で、8月19日(月)須崎くろしお病院にて開催することができました。

上村 直第二外科部副部長より「当院における膵がん診療の取り組み」、溝淵 佳史第一脳神経外科部副部長より「意外と見過ごされやすい脳腫瘍」のお話をさせていただきました。参加された方からは、「画像がありわかりやすかった」「実際の症例をきくことができ、臨床でも役立てていこうと思いました」など、好評をいただいています。



第二外科部副部長  
上村 直



第一脳神経外科部副部長  
溝淵 佳史



## 高知県医師会報に、当院の糖尿病・腎臓内科の紹介を掲載していただきました。



辻Dr



高知赤十字病院糖尿病・腎臓内科では、現在6名体制で診療にあたっております。当科のモットーは、臓器に偏らない全人的視野で10年後の未来を見据えて診療を行うことであり、糖尿病や腎臓病、リウマチ・膠原病を中心としたさまざまな領域の疾患につき治療を行っております。

これからも高知県医師会の先生方と連携し、高知県の医療に貢献して参ります。

高知赤十字病院  
ホームページ

<https://www.kochi-med.jrc.or.jp/>



高知赤十字病院  
Facebook

<https://www.facebook.com/krch.kouhou/>



よろしければ  
フォロワー登録  
お願いします



皆さまへよりよい情報提供ができる紙面づくりを目指しております。  
本誌に対するご意見やご要望などございましたら、高知赤十字病院医療事業・広報課までお寄せください。  
(088-822-1201 (代表))

